

村上市総合計画審議会 議事録

会議名	第2回 村上市総合計画審議会																																																																																										
年月日	平成27年8月27日(木) 10:00~12:00																																																																																										
会場	村上市役所本庁 4階大会議室																																																																																										
出席者	<p>【委員】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">荒川地区地域審議会</td> <td style="width: 20%;">会長</td> <td style="width: 30%;">会田 健次</td> </tr> <tr> <td>村上市観光協会</td> <td>会長</td> <td>浅野 謙一(欠席)</td> </tr> <tr> <td>一般公募</td> <td></td> <td>板垣 真</td> </tr> <tr> <td>村上市金融団</td> <td></td> <td>漆山 淳哉</td> </tr> <tr> <td>神林地区地域審議会</td> <td>会長</td> <td>大嶋 芳美</td> </tr> <tr> <td>朝日地区地域審議会</td> <td>副会長</td> <td>大滝 重秋</td> </tr> <tr> <td>一般社団法人村上市建設業協会</td> <td>会長</td> <td>加藤 幹司</td> </tr> <tr> <td>特定非営利活動法人おたすけさんぼく</td> <td>理事長</td> <td>加藤 英人</td> </tr> <tr> <td>村上商工会議所</td> <td>会頭</td> <td>齋藤 茂</td> </tr> <tr> <td>一般公募</td> <td></td> <td>齋藤 俊則</td> </tr> <tr> <td>一般社団法人村上市岩船郡医師会</td> <td>会長</td> <td>佐々木 誠司(欠席)</td> </tr> <tr> <td>社会福祉法人村上市社会福祉協議会</td> <td>会長</td> <td>佐藤 芳男</td> </tr> <tr> <td>新潟県村上地域振興局</td> <td>局長</td> <td>田辺 敏夫</td> </tr> <tr> <td>村上市地域農業活性化検討会</td> <td>座長</td> <td>忠 聡</td> </tr> <tr> <td>山北地区地域審議会</td> <td>会長</td> <td>富樫 保晴</td> </tr> <tr> <td>村上公共職業安定所</td> <td>所長</td> <td>長柄 肇</td> </tr> <tr> <td>村上市岩船郡PTA協議会</td> <td>理事</td> <td>八藤後 瑞枝</td> </tr> <tr> <td>村上地区地域審議会</td> <td>会長</td> <td>山口 治雄</td> </tr> <tr> <td>学校法人北都健勝学園新潟リハビリテーション大学</td> <td>学長</td> <td>山村 千絵</td> </tr> <tr> <td>村上地域水産業再生委員会</td> <td>会長</td> <td>脇坂 三重城</td> </tr> <tr> <td>一般公募</td> <td></td> <td>渡辺 ひろみ</td> </tr> <tr> <td>NPO法人希楽々</td> <td>ゼネラルマネージャー・副理事長</td> <td>渡辺 優子</td> </tr> </table> <p>【事務局】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">村上市 政策推進課</td> <td style="width: 20%;">課長</td> <td style="width: 30%;">渡辺 正信</td> </tr> <tr> <td>村上市 政策推進課</td> <td>参事</td> <td>竹内 和広</td> </tr> <tr> <td>村上市 政策推進課 企画政策室</td> <td>副参事</td> <td>田中 和仁</td> </tr> <tr> <td>村上市 政策推進課 企画政策室</td> <td>係長</td> <td>田村 政和</td> </tr> <tr> <td>村上市 政策推進課 企画政策室</td> <td>主査</td> <td>渡辺 真吾</td> </tr> <tr> <td>村上市 政策推進課 企画政策室</td> <td>主事</td> <td>石平 悠佳</td> </tr> </table> <p>【コンサルタント事業者】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">エヌシーイー株式会社 都市環境部</td> <td style="width: 40%;">小見 直樹</td> </tr> <tr> <td>エヌシーイー株式会社 都市環境部</td> <td>吉川 佐和</td> </tr> </table>			荒川地区地域審議会	会長	会田 健次	村上市観光協会	会長	浅野 謙一(欠席)	一般公募		板垣 真	村上市金融団		漆山 淳哉	神林地区地域審議会	会長	大嶋 芳美	朝日地区地域審議会	副会長	大滝 重秋	一般社団法人村上市建設業協会	会長	加藤 幹司	特定非営利活動法人おたすけさんぼく	理事長	加藤 英人	村上商工会議所	会頭	齋藤 茂	一般公募		齋藤 俊則	一般社団法人村上市岩船郡医師会	会長	佐々木 誠司(欠席)	社会福祉法人村上市社会福祉協議会	会長	佐藤 芳男	新潟県村上地域振興局	局長	田辺 敏夫	村上市地域農業活性化検討会	座長	忠 聡	山北地区地域審議会	会長	富樫 保晴	村上公共職業安定所	所長	長柄 肇	村上市岩船郡PTA協議会	理事	八藤後 瑞枝	村上地区地域審議会	会長	山口 治雄	学校法人北都健勝学園新潟リハビリテーション大学	学長	山村 千絵	村上地域水産業再生委員会	会長	脇坂 三重城	一般公募		渡辺 ひろみ	NPO法人希楽々	ゼネラルマネージャー・副理事長	渡辺 優子	村上市 政策推進課	課長	渡辺 正信	村上市 政策推進課	参事	竹内 和広	村上市 政策推進課 企画政策室	副参事	田中 和仁	村上市 政策推進課 企画政策室	係長	田村 政和	村上市 政策推進課 企画政策室	主査	渡辺 真吾	村上市 政策推進課 企画政策室	主事	石平 悠佳	エヌシーイー株式会社 都市環境部	小見 直樹	エヌシーイー株式会社 都市環境部	吉川 佐和
荒川地区地域審議会	会長	会田 健次																																																																																									
村上市観光協会	会長	浅野 謙一(欠席)																																																																																									
一般公募		板垣 真																																																																																									
村上市金融団		漆山 淳哉																																																																																									
神林地区地域審議会	会長	大嶋 芳美																																																																																									
朝日地区地域審議会	副会長	大滝 重秋																																																																																									
一般社団法人村上市建設業協会	会長	加藤 幹司																																																																																									
特定非営利活動法人おたすけさんぼく	理事長	加藤 英人																																																																																									
村上商工会議所	会頭	齋藤 茂																																																																																									
一般公募		齋藤 俊則																																																																																									
一般社団法人村上市岩船郡医師会	会長	佐々木 誠司(欠席)																																																																																									
社会福祉法人村上市社会福祉協議会	会長	佐藤 芳男																																																																																									
新潟県村上地域振興局	局長	田辺 敏夫																																																																																									
村上市地域農業活性化検討会	座長	忠 聡																																																																																									
山北地区地域審議会	会長	富樫 保晴																																																																																									
村上公共職業安定所	所長	長柄 肇																																																																																									
村上市岩船郡PTA協議会	理事	八藤後 瑞枝																																																																																									
村上地区地域審議会	会長	山口 治雄																																																																																									
学校法人北都健勝学園新潟リハビリテーション大学	学長	山村 千絵																																																																																									
村上地域水産業再生委員会	会長	脇坂 三重城																																																																																									
一般公募		渡辺 ひろみ																																																																																									
NPO法人希楽々	ゼネラルマネージャー・副理事長	渡辺 優子																																																																																									
村上市 政策推進課	課長	渡辺 正信																																																																																									
村上市 政策推進課	参事	竹内 和広																																																																																									
村上市 政策推進課 企画政策室	副参事	田中 和仁																																																																																									
村上市 政策推進課 企画政策室	係長	田村 政和																																																																																									
村上市 政策推進課 企画政策室	主査	渡辺 真吾																																																																																									
村上市 政策推進課 企画政策室	主事	石平 悠佳																																																																																									
エヌシーイー株式会社 都市環境部	小見 直樹																																																																																										
エヌシーイー株式会社 都市環境部	吉川 佐和																																																																																										
[進行]事務局	<p>1. 開会 〈欠席委員の確認〉 ・浅野委員、佐々木委員の2名が欠席</p>																																																																																										
忠会長	<p>2. 会長挨拶 〈あいさつ〉</p>																																																																																										

[議事進行] 忠会長	<p>3. 報告</p> <p>報告に入る前に、前回第1回目でご欠席されました委員の中で、お二人の方が今日出席されておりますので、自己紹介を簡単にお願いしたいと思います。</p>
漆山委員・ 長柄委員	<p>〈自己紹介〉</p>
忠会長	<p>(1) 高校生アンケートの分析結果について</p> <p>それでは報告の(1)になりますが、高校生アンケートの分析結果について事務局よりお願いします。</p>
[説明] 事務局	<p>〈資料1：高校生アンケートの分析結果について説明〉</p>
忠会長	<p>ありがとうございました。ただ今のご報告につきまして、何かご質問があればお受けします。よろしいでしょうか。ご質問はないようですので、次の報告に入らせていただきます。</p>
忠会長	<p>(2) 専門部会の構成について</p> <p>(2) 専門部会の構成について、事務局よりよろしくお願いします。</p>
[説明] 事務局	<p>〈資料2：専門部会の構成について説明〉</p>
忠会長	<p>ありがとうございました。ご挨拶でも申し上げましたとおり、私に一任をいただいたということでございます。今ほど事務局から説明があったとおり、皆さまのご経験、あるいは地域バランス、そういったことにも配慮しながら任命をさせていただいた次第でございます。</p> <p>なお座長、副座長をお願いする委員の方につきましては、大変ご苦勞をお掛けしますけれども、よろしくお願ひしたいと思います。これにつきましては意見とか、質問はあえていただかないことにしたいと思います。よろしくお願ひします。</p> <p>それでは早速なのですが、先般20日に総合戦略部会を開催したところでございますので、加藤座長さんから簡単に様子を報告いただきます。その後、事務局からも補足を願ひしようと思ひます。よろしくお願ひします。</p>
加藤幹司委員	<p>総合戦略部会の座長を仰せ付かっている加藤幹司でございます。大変大きなテーマと重い責任を持った課題を預けられたと緊張しているわけでありませう。</p> <p>まず総合戦略とは何だということで、事務局からご説明をいただきました。それに基づきまして、9人で構成されたメンバーで、それぞれの立場からのご発言をいただいたわけでありませう。もとより1回目でありませうから、結論など出るわけはなから、こういう会議を重ねるうちに、だんだんテーマを絞っていきたいと思ひておひります。1回目でありませうから、言いつ放しのところはありませうけれども、それぞれの委員の皆さまのお考えを共有できたのが成果だったと思ひているところでありませう。詳しくはまた、事務局からよろしくお願ひいたします。</p>
忠会長	<p>ありがとうございました。事務局から補足があればお願ひします。</p>
事務局	<p>今日、机上配布させていただきました「写」となっているものが8月20日に</p>

開催しました第1回の総合戦略部会の資料でございます。8月20日、午後1時半より全委員の皆さまにご出席をいただきまして、第1回目の総合戦略部会を開催させていただきました。

今ほど座長の挨拶にありましたとおり、まず総合戦略とは何だというところをきちんと把握して、この作業部会は何の役割をするのだろうかという共通認識を持ち、その共通認識の中での第1回目でございますので、それぞれの基本的な考え方のようなものの意見交換を実施させていただきました。

表面の記載につきましては第1回の当審議会で、総合計画と総合戦略の関係について説明不足の点もありまして、はっきりしないまま第1回の審議会を終えられた委員の方も多くいらっしゃると思います。今回の総合戦略部会では、前回より分かりやすい資料を提出させていただき、まず総合戦略の位置づけについて、ご確認をいただいたところでございます。

資料の下段に図で示してございますように、どうしても第2次村上市総合計画と総合戦略の計画年度が2カ年ずれ込みます。

右側に記載しているとおり、総合戦略で取り組む課題は、総合計画における中心的な課題に共通する点が多々あるため、総合計画でも重点的な戦略になるという位置付けで、平成31年度までで計画し、第2次村上市総合計画は、平成29年度から現在のところ5年程度でどうかと考えております。平成31年以降の総合戦略に関する情報は聞いておりません。

ただ総合戦略の定めるものは、総合計画の中で引き続き実践していくという位置づけの計画であることを、再認識をいただいたところでございます。

裏面をご覧ください。それを受けまして、総合戦略部会の役割についていろいろご説明させていただきました。意見交換をさせていただきました。後ほど基本構想の案を議事のほうで、ご説明させていただきますが、総合戦略の施策の方向性の4つの視点があることについては、この素案のとおりでございます。その視点を受けて、総合戦略部会は何をするのかは、右側矢印で示している部分でございます。

一つとして、既存事業への意見とあります。この既存事業は、平成26年度に国の補正予算で、地方創生の先行型の交付金を申請させていただいて、すでに事業を実施しております。これは5年間、総合戦略の中に盛り込むという条件の事業でございます。その時期では行政内部のみで、立案させていただいて交付金をいただいています。

その事業は毎年見直しをする条件ですので、まず行政内部で立案した先行型のものが、既存事業ということです。それについて、まず委員のご意見を頂戴したいので、この作業を優先させてくださいというお願いをしたところでございます。

その後、新たな視点での意見というものがございます。これについては次回以降になりますが、現在、市でもアイデアを各課から寄せていて、それを第4回辺りまでに、市の内部としても絞り込みをさせていただきます。この大きな2点について、総合戦略の具体的な事業についてのいろいろな意見交換をさせていただいて、正案としてまとめたいただき、その作業を作業部会にお願いしたところでございます。

後ほど、第3回の総合計画審議会の日程等もありますが、何とか9月中に、2回ぐらい部会をさせていただきたいということでお願いし、第1回目の部会は終了させていただきました。以上でございます。

忠会長

ありがとうございました。以上、報告事項ということでございます。

ここで事務局からお話がありました総合戦略の基本構想案については次の議事の中で、更に皆さま方よりご意見をいただくということでございますので、

	<p>説明はここで終わらせていただきたいと思います。よろしく申し上げます。</p>
忠会長	<p>4. 議事 (1) 「村上市総合戦略基本構想（案）」について</p> <p>先ほど申し上げましたように、総合計画に先んじて総合戦略をまず組み立てる必要があるということで、期限もあるようでございますので、まずこれを先行してご議論いただくということにさせていただきたいと思います。それでは資料の説明を、事務局からお願いします。</p>
[説明]事務局	<p>〈資料 3-1、3-2 について説明〉</p>
事務局	<p>中段の政策理念の欄に、資料 3-2 という記載がございます。資料 3-2 というのを見ていただきたいのですが、前回この政策理念は私どもから予備提起の中で、この 4 つの政策理念でいきたいというご提案をさせていただいたところがあります。</p> <p>市民アンケートの集計を随時分析していく中で、やはりこの政策理念も市民アンケートの結果をきちんと反映する形でないとおかしいという内部の議論になりました。</p> <p>市民アンケートを実施するときに、総合計画もございしますが、私どもとしては総合戦略の視野もあったものですから、総合戦略にも活かせるような設問を設定させていただいております。第 1 回で配布させていただきました、問 15 から問 20 までの 5 問を、将来的に総合戦略の策定に生かせるアンケートの設問をさせていただいたつもりでございます。その中で問 15 「将来人口を踏まえて今後どのようなことが必要だと思いますか」というものについては、回答の傾向としては、「今後のまちづくりで働く場を生み出すこと」や、「若者に魅力あるまちづくり、子育てしやすいまちづくりが求められています」ということでした。これはまさしく、今回総合戦略の政策面にあります「雇用拡大し、にぎわいと活気のあるまちをつくる」「個性ある魅力を高め、人を引きつけるまちをつくる」「結婚や子育てを応援し、若者が暮らしやすいまちをつくる」ということにつながるだろうということで、順番は逆かもしれませんが、この政策理念のものと、市民の意向の整合性について分析しました。</p> <p>それを資料 3-2 として、以降、問 16 から問 20 についてで、それぞれ政策理念とアンケート結果の分析結果を付けさせていただいたというものであります。よろしくお願ひいたします。</p>
忠会長	<p>ありがとうございます。これよりご質問、あるいはご意見をいただきたいと思ひます。説明が複雑で長いかなという感じがするのですが、忌憚のないご意見、ご質問をいただきたいと思ひます。</p> <p>(1) の構想(案)につきましても、資料 3-1 の理念、それから方向性、これは今日この審議会で決議をいただきたいという事項になりますので、どうぞご意見をお願いしたいと思ひます。どなたからでも結構でございますので、まずは手を挙げていただいて指名をさせていただきます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>総合戦略部会で参加された委員の皆さまからの発言でも結構でございます。まずはこの政策理念の 4 つについてはいかがでしょうか。参考までに板垣さん、総合戦略でも先だつてご発言いただきましたけれども、改めてまたお願ひしたいのですが、いかがでしょうか。</p>
板垣委員	<p>正直よくまとめられていると思ひます。非常によい中身になっているなど、</p>

<p>忠会長</p>	<p>改めて思いました。</p> <p>ありがとうございます。今日初めての参加ですけれども、漆山さん、地域以外からこの村上市を見ているのですけれども、この理念でどうかということをお願いします。</p>
<p>漆山委員</p>	<p>今ほどのご説明でも非常に分かりやすくご説明をいただいたと思います。政策理念につきましても、市民の皆さまからのアンケート結果等に基づいて、それと整合性を持たせる形でこの4項目をやらせております。客観的に見ても非常に納得性というか、分かりやすい、入り口の理念としてはいいものではないかなと思っております。</p> <p>政策の方向性については、私ども金融機関は、国から地方創生に関して、各行政の皆さまといろいろ連携をしてお手伝いをという立場でございます。その中で金融機関としていろいろの対応等、検討させていただいているところではあります。非常にそういった意味からも、新規就業、新規事業の創出、ブランド化、あとは特に村上の場合は食、文化、歴史、観光、ほかの地域にはない非常に強みを持っているということでございます。</p> <p>その中でも村上市全体としては、ブランドなどは必要でしょうし、最終的には人口を増やす、そのためには雇用を増やしていくという考え方も当然でございます。捉えようとしては非常に記載のとおり、内容としても分かるものだと思います。</p>
<p>忠会長</p>	<p>ありがとうございます。もう一方、山村委員さん、いかがでしょうか。</p> <p>ずいぶん多くの学生さんを迎えられておりますし、村上市と事業連携をされたとお聞きしております。そういったことに基づきながら、ご意見をいただければと思います。お願いします。</p>
<p>山村委員</p>	<p>こちらに掲げてあります政策理念と方向性のところで、この辺りは漠然としていた内容で良いとは思うのですけれども、二つ目にあります個性ある魅力と、それから方向性のところにあります新たな魅力づくりについて、実際に「個性ある」とか「新たな」というところで、もうちょっと具体性のところで何かお考えがあるのかということをお聞きしたいです。</p> <p>それから現在の大学の状況を申し上げますと、入学定員120名のうち村上市内から進学してくれている学生が、多い学年でも2、3人程度しかおりません。非常に少ない状態だと思っております。</p> <p>これには本学自体も、カリキュラム等で魅力をよくしていくということもありますけれども、市からのご協力もいただきたいと考えております。市内から進学してくれる学生は、おそらくそのまま市内で住み続けるということもあるかと思えます。市外や県外から来ている学生は、卒業した後は地元に戻るパターンが多いと思いますので、何とか市内から進学してくれる学生を増やしていきたい。</p> <p>目標にあるとおり、住み続けたい、住んでみたいと思うような村上市をつくらせていただいて、村上市と本学と一体になりまして、できるだけ若者に大学へ入っていただいて、そのまま村上市内に住み続けていただけるような環境づくりを考えていきたいと思っております。</p> <p>その中で具体的なことにもなるのですけれども、村上市で今やっております奨学金制度というものがございます。今奨学金の給付条件として、他大学と本学との差別がなく一律に給付している状態です。今回の包括連携協定を結んでいただいたことを機に、本学に入学してくれる学生に何か奨学金等で</p>

	<p>優遇していただけるような方向性を考えていただければと、思っております。</p> <p>それから、実は来年4月から新しくリハビリテーション心理学専攻を立ち上げる予定になっております。心理学ですので、就職先として想定されるものが一般企業、公務員等という形になります。そういったときに市内での就職先等を考慮していかなければいけないということです。</p> <p>この専攻は、産業カウンセラーや認定心理士という資格を、卒業時に取得できるようなことを目的として立ち上げております。企業にそういったカウンセラー的な立場で配置されるような学生も養成していこうと考えておりますので、そういった雇用創出の面でもまた連携して考えていただければと思います。</p> <p>それと奨学金との連携ですけれども、本学に入ってきて、村上市内に就職を希望している学生に対しては、特にまた差別化して優遇していただけるような奨学金制度であれば、卒業後もなお村上市内に定着していただけるのではないかと考えております。その辺りも考えていただければと思っています。よろしくお願ひ致します。</p>
忠会長	<p>ありがとうございました。具体的なお要望もあったようですが、それも含めながら、冒頭に指摘がありました具体的な書き込みについてはどうでしょうか。</p>
事務局	<p>第1回の総合計画審議会では、「①企業の支援と産業の活性化」に事業イメージが、白い丸で4つほど書いてありましたが、②～④にも事業イメージを付けた資料でご説明をさせていただきました。今回は具体的な検討は総合戦略部会へ移行していくということをご了承いただきたいという趣旨等がございまして、②～④のところに事業イメージを記載しておりません。</p> <p>山村委員ご指摘のように、「個性ある魅力」、「新たな魅力づくり等」というところの定義はどうなっているのかということはあるかと思ひます。「個性ある魅力を高める」につきましては、先ほど漆山委員さんが言われたイメージがそのままと思ひます。地域にある食、文化、歴史、伝統という既存のものというのを、私たちは村上市の個性と捉えておりますので、その魅力は高めていこうというものがございまして。</p> <p>施策の方向性の「新たな魅力づくり等」という、「等」の部分には、まだ未開発な観光資源があるだろうところを、イメージしております。また、新たに情報発信力を高めることによって、新たな魅力になっていかないかというところも視野に入れていまして。</p> <p>奨学金制度につきましては、非常に具体的なお提案をいただきまして、この場で、「はい、分かりました」とご答弁はできないのですが、後ほど中間総括のところでも若干触れさせてもらいたいと思ひます。</p> <p>定住の里づくりアクションプランをつくったときに、地域を担う人材のためには、特別な奨学金制度はやはり検討していかなければならないという意見の整理はしています。それについては、総括で「全然できていない」とさせていたいただいているところですが、今、リハビリテーション大学さんとの連携協定の中で、また新たな方向性も出てきましたので、十分担当課とも相談させていただきたいと思ひております。</p> <p>それから人口減少対策につながる施策として、担当課と十分協議をさせていただきたいと思ひます。心理学の専攻という新たな科目も今の時代に非常にマッチする動きであると認識しております。それも含めて担当課に投げかけていきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。</p>
忠会長	<p>ありがとうございました。只今いただきました意見につきましては、次回以降の総合戦略部会の中でも、さらに検討を深めていきたいと思ひます。よろし</p>

田辺委員	<p>くお願いします。</p> <p>もうお一方、村上地域振興局局長の田辺委員さんから、ご意見をいただきたいと思います。</p> <p>地域の連携というのは、定住自立圏とか、地域の中の支え合いということで、大きな連携と小さな連携があり、この辺がもう少し整理されたほうがいいのかという気がしました。地域と言っても、どういう地域を指すのか、その辺を改めて考えまして、不明確のように感じたところでございます。</p> <p>もう一つは先ほどありました魅力づくりということで、今ある魅力、あるいは新たな魅力ということがありますけれども、今この地域では岩船米とか、村上牛とか、酒、お茶もありますし、また伝統工芸品もございます。いろいろなブランドがありますけれども、個々のブランドを一つ一つ発信していても、なかなか他のブランド、岩船米であれば魚沼産のコシヒカリと競争になりますし、村上牛であれば神戸牛とか松阪牛がでございます。個々で競争してもなかなか一番になるのは難しいので、村上市にある資源、そういうものを村上ブランドとして包括的に売り出して、発信していくものをしっかり組織をつくって、村上地域の魅力全体を高める方向に持っていくことがいいのではないかなと思っていますので、そういうものを事業イメージとして具体的に考えてもらいたいと思います。</p>
忠会長	<p>ありがとうございました。地域の連携ということに関しましては、先般の戦略部会の中でも、実は私が発言させていただいたのですが、大きなテーマでは人口減少問題をテーマにしました。</p> <p>村上市全体から見ても、旧村上市街地にはやや人が集まってはいるものの、農村部は非常に人口が減少している。ちょっとバランスを欠く部分があるのではないかなど。そういったところに配慮した施策というのが必要なのではないかというような発言をさせていただいたわけでございます。</p> <p>これに関して、事務局からお答えがあればお願いしたいと思います。</p>
事務局	<p>田辺委員、並びに会長のご指摘のとおり、私どもの視点としては、会長の視点も十分に含んだ上での表現にしたつもりだったのですが、やはり言葉足らずの部分があるのかなと思っております。</p> <p>今お示ししているのは、概要図のような形になりますので、次回辺りに冊子スタイルで提示し、それぞれの企業の支援と、産業の活性化の説明のような文章が入っていくと、より分かりやすくなるかと思っております。</p> <p>タイトルのものは、原則この形でやらせていただきましたが、先ほどのご発言も含め、その施策の方向性の説明文書の中で、今の委員のご意見等をしっかり反映させるような表現にしていきたいと思っております。</p> <p>田辺委員の両意見につきましても、大変参考になる意見ですので、そこを戦略部会の中でも再度ご意見をいただければと思っております。</p>
忠会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>もうお一方。今度は地元を代表してということではないのですが、会田委員さんからこのテーマについて、ご発言をお願いしたいと思います。</p>
会田委員	<p>特に問題はないのですが、この4つの政策理念はやはり市政の運営上、全般的なものを網羅されているものと理解しています。そういうことで、この4つの中にいろいろと細かく、分解すれば全て今後市政運営上に必要な部分が網羅されているものと理解しております。</p>

<p>忠会長</p>	<p>ありがとうございました。 それでは広く皆さま方からご意見、ご質問があればお受けしたいと思います が、いかがでしょうか。 それでは特にないようでございます。多くのご意見と指摘をいただいたところ でございます、事務局がお答えした部分もでございます。今後、総合戦略部 会に更なる中身を委ねるといふ形を提言しまして、今回示されたこの構想案に ついては、ご承認いただけますでしょうか。</p> <p><会場から「はい」の声あり></p>
<p>忠会長</p>	<p>異議なしと認めまして、原案どおり承認をさせていただきたいと思いま す。ありがとうございました。 続いて（２）人口の将来展望の考え方についてでございます。事務局よりご 説明をお願い致します。</p>
<p>[説明]事務局</p>	<p><資料４、１ページ目について説明></p>
<p>忠会長</p>	<p>ありがとうございました。只今の議事につきましては、今日は結論を求め るところまではいたしませんので、皆さま方からこの部分についていろ いろなご意見をいただければと思います。ご質問を併せてお願いしたいと思 います。いかがでしょうか。 私からですけれども、人口の長期的（2060年）とあるのですが、この2060 年という設定は決められているものなのですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>後ほど将来展望の考え方は補足させていただきますけれども、国では2060 年が基本ですが、自治体が2040年を選択するのであれば、それでも構いません という言い方をしています。 私どもも大変戸惑っているのですけれども、総合戦略で掲げる人口の目標が、 人口ビジョンの将来人口とイコールでないとおかしいじゃないかという意見も ないことはないわけです。 ただ国は、あくまでも将来を展望するビジョン事項であって、それが総合戦 略の目標人口とイコールでなくても良く、そこに縛られると自由闊達な総合戦 略ができないので、切り離して考えても良いという通知は来ています。今回、 これを挙げたのは、村上市としては、きちんと人口ビジョンの分析結果と総合 戦略の政策理念の部分は、リンクさせてビジョンの結果を生かした総合戦略づ くりをさせていただきたいという意味で、今回またこれを再度ご説明させて いただいたということでございます。</p>
<p>忠会長</p>	<p>いかがでしょうか。そもそものところが分からなくて、戸惑っていると思 うのですが。どうですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>昨日も県の懇談会がありまして、出席してきましたのですけれども。やはり県議 会でも、「総合戦略でKPIまで設けているのに人口ビジョンの数値と一致しな いのはおかしい」というような意見も出たそうです。 県も私どもと同じスタンスで、それを目標に縛ると非常に将来展望もがちが ちで、本当にできるような確実なものしかなくて、自由闊達な目標を掲げると ころでダウンするようなことになるので、それはある程度すみ分けて考えな ければなりません。</p>

	<p>村上市としては、イコールではないけれども、人口ビジョンの課題、将来展望の考え方と、総合戦略の政策理念は一致させたい。小さな7万人の市で、展望は展望、総合戦略は総合戦略ではなくて、基本の考え方は同じでいきたいということでございます。</p> <p>次に将来展望の考え方のいろいろな事例でご説明させていただきますけれども、目指すべき方向の一致を、こんな形でリンクさせたいというご提案でありますし、ご意見をいただきたいというところであります。</p>
<p>忠会長</p> <p>田辺委員</p>	<p>田辺委員さん。</p> <p>やはり将来人口ビジョン、目標を決めないと具体的なものは、はっきり決まらないと思います。確かにそのように縛られると、なかなか難しいという面が出てくるかもしれませんが、やはり目標というものがあって、そのためにどれだけ増やすのだ、出生数をどうするか、そのためにはどうやってまちづくりを進めていくかということはリンクしてくると思うのです。</p> <p>それをしっかり理念と言いますか、あくまで人口ビジョンがあって、それに対する具体的には出生率をどうするのか、社会像をどうするのか、ある程度それを決めていかないと、施策自体はなかなか決まっていけないと思うので、ある程度リンクさせてしっかりと議論したほうが良いかと思います。</p>
<p>忠会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>では会田委員、よろしくお願いします。</p>
<p>会田委員</p>	<p>人口減少というのは、当然全国的な傾向で、全国首都圏以外はほとんど減少しているというのが実態だと思うのです。ことに村上市の人口の減少、社会減少と自然減少があるわけですが、お分かりでしたらお聞かせ願いたいのです。大意は流出によって減っている数と、それから出生あるいは死亡によって減っている割合というのは、どんなものかお聞かせいただきたい。</p>
<p>忠会長</p>	<p>それでは事務局から。資料がもう2枚ほどありますし、そこまでご説明いただいた方がかえって意見が出しやすいものと思いますので、今の会田委員の質問に答えながらお願いしたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>では今の会田委員の質問の概要を若干説明させていただいた後、引き続きその裏の、将来展望の考え方を併せてご紹介させていただきたいと思います。その後、またご議論をいただければと思いますので、よろしくお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは具体的なものとして、第1回の総合計画審議会でお渡ししました資料というのはお持ちでいらっしゃいますでしょうか。「村上市の人口推計状況の概要」というもので、カラーで刷りました資料6というものでございます。</p> <p>出生数と自然減と社会減の関係ということでしたので、資料6の中の2ページをご覧になっていただきたいと思います。</p> <p>転入と転出の関係、それから出生と死亡の関係が、一つのグラフの中に併記されて描いてございます。上のほうから説明しますと、一番上のライン、紫のラインが転出のラインでございます。その下段のほう、青いラインが転入のラインでございます。</p> <p>従ってこの間、青と紫の間の細さと言いますか、これが社会減の関係になります。そう考えると社会減の数はあまり差がないように思います。ただ常に転出のほう为上回っているような状況であるということが言えると思います。そ</p>

	<p>れから下の段をご覧ください。下の段、中段のほうは緑のラインは死亡ですし、一番下が出生のラインです。</p> <p>まず死亡ですが、どんどん上がっていくような形になります。冒頭で説明しましたとおり、高齢化が進んでいくものですから、どうしてもお年寄りの死亡が増えていきます。それから出生は下がっている状況にあります。</p> <p>従って社会減の状況と比べますと、自然減の方はどちらかというと拡大傾向という形になります。これによりまして、どうしてもやはり人口減少が進んでいます。</p> <p>特に社会減の主なものは、若者の流出に伴うものでございます。そう考えますと、子どもを産む世代が減っていく、加えて出生が減っていく。ダブルで減っていくという状況になっておりますので、どうしても人口の減少に歯止めが掛からない状況が続いています。</p> <p>それから、資料の8ページをご覧くださいと分るかと思うのですが、8ページは転入と転出の関係を男女別に比較したものでございます。</p> <p>東京圏と新潟市圏に分けていますが、全般的に見ますと、やはり転出が転入を上回っている状況はずっと続いています。右側のほうが女性、左側のほうが男性となっております。女性のほうが転出の数が非常に多いです。帰ってくる人が少ないと捉えてもいいと思います。</p> <p>そう考えると子どもを産む女性が減るということは必然的に出生の数が減るという形になっております。こういった意味でも、ダブルで人口の減少が続いていくという状況にあります。以上です。</p>
忠会長	<p>会田委員さん、そういうことでございますがよろしいでしょうか。では引き続いて、資料の説明をお願いしたいと思います。資料4の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>〈資料4 2～4ページ目について説明〉</p>
事務局	<p>今回なぜこれを、皆さまにご意見を頂戴したいかの理由につきまして、補足で説明させていただきます。</p> <p>人口ビジョン、分析等はほぼでき上がっております。最後の詰めとするところは、村上市は将来展望、先ほどのリンクも含めながら、いったいどんなラインを描くかというところが、まだ庁内でも決定をしておりません。</p> <p>それが固まると、人口ビジョンそのものがもうほぼ完成に近い形まで、現在業者さんとも詰めが終わっております。</p> <p>第3回の審議会に向けまして、人口ビジョンを固めたい、庁内としても案を固めたいということですので、庁内で決める前に、やはり一度、審議会委員の皆さまにご意見を頂戴したいということで、今回、議事の2で、極端な話2040年にした方が良いか、2060年にした方が良いかについて、ご意見をいただきたいと思っております。</p> <p>今日は決定でも何でもございませぬ。いろいろな市のパターンはあるけれども、村上市ではどうするのが良いか意見交換を、次回の庁内策定委員会の参考にさせていただきたいということで、今回ご提案、説明をさせていただき、意見交換をお願いしたいということです。よろしくお願いたします。</p>
忠会長	<p>そういうことだそうです。ここで決めるものではないのだけれども、ご意見をいただきたいということでございます。どうぞ気楽に思いの丈を、お話しいただきたいと思っております。どうぞいかがですか。</p> <p>はい、渡辺委員、お願いします。</p>

渡辺委員	<p>将来展望のシミュレーション等を見ていて、出生率が2.1とか2.15という、そういう想定で描いたものだと思います。実際村上市の出生率は2014年だと1.61ということなので、相当大胆な、子どもを安心して産んでもらうための環境がないと、その数値には到底行かないのかなと、まず一つ思いました。</p> <p>それから、最初のほうの人口ビジョンと総合戦略をリンクするというお話の中で、先ほどの最初のページに①から④まで付いていますが、この前の総合戦略の会議でもお話があったと思うのですが、①②③については、これから新しい取り組みをして、どんどん増やしていこうということだと思います。④に関しては、いろいろな取り組みをしていく中でもやはりどんどん減っていくので、減った場合のその対応ということも、総合戦略の中で話が出ていたと思います。④に関しては、人口の減少に備えた地域づくりということなので、これは先ほどの政策理念の地域の連携で支え合うというところに、結果的にはリンクしていくということですよ。以上です。</p>
忠会長	<p>今のご意見につきましては、何かございますか。</p>
事務局	<p>後段の部分はまさしくその趣旨であって、説明不足を補っていただいて、ありがたいと思います。</p> <p>先ほど、渡辺委員がおっしゃいましたように、出生率が2.1、2.15が現実的な話なのか、よほど思い切った施策を展開しないとできないという意味を含めてのご指摘だと思います。</p> <p>その意味からしても、2.1をすればこうなる展望ですというビジョンであって、2.1にするための総合戦略にすると、それこそ何もかもそこに集中するような、思い切った施策をしないとできないという現実です。</p> <p>ですから、ぴったり数値目標、展望の考え方と相互戦略の目標数値をイコールであるとする、現実と理想の話のイコールにすることとなり、国もきっちり数値等を一致させることで、むしろ市町村が身動き取れなくなることはしたくないということもあり、ビジョンと総合戦略はきっちりリンクしなくても良いとされています。</p>
忠会長	<p>ほかにいかがでしょうか。板垣委員。</p>
板垣委員	<p>今のパターンが出た中で、前回の第1回の審議会になかったのが、この将来展望の例だと思うのですが、推計方向の説明書きの中で、「③減少を抑制した人数のうち、ほぼ半数を25歳から49歳の年齢の者とした」とあるが、この減少を抑制した人数というのは、②の2040年までの25年間の減少を抑えたところか、もしくは2040年から2060年までの20年間の減少抑制と、どちらに掛かってくる部分ですか。</p>
事務局	<p>両方に掛かってきます。</p>
板垣委員	<p>そうすると、ほぼ半数を25歳から49歳の年齢の者というのは、流出を想定した部分がこの半数ということでしょうか。一般的な平均寿命からすると、この年代がいなくなるというのはごく低い確率かなと思うので。併せてその中で半数が、例えば死亡になった場合、今現在だいたい1,000人ぐらいですよ。そうすると今後はある一定の境の時期に、死亡数も減るわけですよ。そういうのを加味されたところは、この減少率に反映されているのかなというのがちょっと疑問だったのですけれども。</p>

事務局	<p>板垣委員のご質問ですけれども、まず 25 歳から 49 歳の辺りにつきましては、具体的に言いますと 25 歳の方が 30 歳になるときに何人残っているかというものを、5 人だけ抑制するという考え方を全ての年代でかけているものでございます。</p> <p>これが合計して何十何人という形にはなるのですが、その中で 25 歳から 49 歳の幅の方について、若干多めに設定をしているという形になっております。おっしゃったように、この年代で死亡する方というのは少ないので、流出を抑えるという部分につながっていくかと思えます。</p> <p>それ以外の年代につきましても、やはり同じように 5 人抑えるとか 2 人抑えるというように算出しております。「死亡」という記述もありますが、80 歳代の方が転入するというのはなかなか考えにくく、健康寿命を伸ばして留めるといった考えもあります。</p> <p>また Uターンをして退職後、村上市に住んでいただくというようなものも、勘案します。それから若い親と一緒に、子どもたちが転入するという部分も加味しまして、それをひっくるめて年平均にしますと 100 人ですという形でお示したものでございます。</p> <p>具体的に言いますと、例えば 2016 年から 2020 年までにどういう設定をしていたかと言いますと、トータルしますと 22 人抑制するという形になっております。それが年を追うごとに、だんだん多くなっていくというような、だんだん施策が浸透して、うまい具合に回っていったときというような、プラス思考でつくってありますので、そういう形で設定をしていったものでございます。その辺を勘案していただきたいと思っております。</p>
忠会長	<p>ほかにいかがでしょうか。では漆山委員、どうぞ。</p>
漆山委員	<p>この将来の人口の展望ということで、おそらく長期的な展望という形になりますので具体的な策とはリンクはしないという中で、ざっくりとしたイメージという捉え方になるのかと思うのですが、将来の展望とうたっているからには、最終的に人口が横ばいか、もしくは増加というイメージでなければ、展望にはなかなかかなりにくいのかと思えます。そういったところからですと、グラフの形としてはこういった形の展望がふさわしくなるのかなというのが、まず 1 点ございます。</p> <p>2040 年、2060 年については、2040 年ということは、あと 25 年ぐらいです。その中で横ばいまで持っていくということになりますので、今後の具体的な施策云々というのでも検討する中では、なかなか期間が短いのではないかという印象を持っています。従って 2060 年を目指してといった形に落ち着くのが、私、個人的には良いのではないかなというのが一つあります。</p> <p>他市の将来人口の比較というところで、計算してみました。国の長期ビジョンでは 2010 年比で見ると 79.6%。栃木県那須塩原市が 87.3%。静岡県牧之原市が 66.2%。京都府京丹後市が 127%という形になっています。</p> <p>国の長期ビジョンがそもそもの目安にはなると思うのですが、そこよりも上に行くのか、横ばいにするのか、あるいは全国的なビジョンよりも若干抑え目にするのか。そういったところからすると、この村上市の将来のビジョンは赤線の 4 万 5,010 人というのは、67.7%になります。全国の 79.6%の比較で、このぐらいの水準でいいかどうか、落ち着きどころとしていいかどうか、これが一つの考え方になってくるのではないかと思ったのが 2 点目です。</p> <p>あと 3 点目ですけれども、人口の将来展望の考え方は当然ながら人口減少、そして高齢化、それに対応する対策が喫緊の課題ということで、資料 4 右側の①②③④、この考え方を総合戦略に盛り込みましょうと。これはそのとおり、</p>

<p>忠会長</p>	<p>分かりやすいですし、おっしゃるとおりだと思います。</p> <p>総合戦略とは若干外れるかもしれないですけども、人口減少を食い止める方策として、こういった考え方もあるのですけれども、一番入り口というか、分かりやすいところが雇用の創出という形になるかと思っています。</p> <p>それをやるためには企業を創業支援等々、細かい地道なものも必要ですけども、一方で市外、県外からの企業誘致ということも実現すれば非常に大きな効果を生むのではないかと考えています。それに対しての行政の考え方を、確認させていただければというのが3点目です。</p>
<p>事務局</p>	<p>いかがでしょうか。</p> <p>まず1点目の2060年、2040年は、まさしく今のようなご意見を、いろいろいただきたいと思っています。2040年にした場合、確かに展望という言葉が横ばいとか上向きとか、プラス思考の展望なのか、現実を見る展望なのかという、いろいろなご意見はあろうかと思っています。</p> <p>2060年を見据えた2040年のような形で、両方併記でもいいかなと悩んでいるというのはその実態でございます。今の漆山委員のご意見は後ほど参考にさせていただきますたいと思います。</p> <p>我々も同じでありまして、全国の2010年比が79.6%ということでございますが、79.6%の中には東京の一極集中化を抑えてというような形が中に入っていて、それによる全国的な影響がどのくらいあるか。私どもが周知していない中で、単純に率で比較して良いかというところは、検証が必要かと思いますが、基本的に水準を考えようというのも一つのアイデアだと受け止めさせていただきますたいと思っています。</p> <p>3番に企業誘致という話がございまして。これは総合戦略よりも、総合計画の中でも大きなテーマとして議論がこれからされるかと思っています。</p> <p>ご存じのように、市内の主要事業であります会社が隣接します胎内市に倉庫を移転、関連企業が移ったということの部分について、私どもも市民の皆さま、市議会の方からいろいろなご指摘を受けています。</p> <p>企業誘致はしたいという意向に変わりはありません。跡地につきましても、前向きに実効性のある取り組みをするように市長からも指示を受けております。総合計画の議論の中では、総合戦略よりも色濃く皆さまに前向きなメッセージを出してご議論いただけるのではないかと、現在のところはそこまでご勘弁いただきたいというところなんです。</p>
<p>忠会長</p>	<p>ありがとうございます。今後また審議会の中でご意見いただきたいと思っております。</p>
<p>佐藤副会長</p>	<p>出生率が2.1と設定したことについて、本当にそれでいいのかどうかと疑問に思いました。増田寛也さんの『地方消滅』という本を読み、現在日本で最も高いのは沖縄県で2013年に出生率が1.94になるのです。OECDの加盟国の約半数は、出生率が1.8を超えているのですけれども、スウェーデンでは2010年までの11年間で出生率が1.50から1.98まで上昇したと書いてありました。</p> <p>村上市としては、流入していただけるような施策を取るとか、それぞれの戦術があるかと思うのですけれども、この戦術をどう立てていくかということは非常に重要になってくると思うのです。この出生率の2.1というのが本当にこれが将来展望として開けていけるのか。希望、要望だけではなくて、逆に2.1が1.5に下がったときにどうなるのだろうと心配をしております。</p> <p>私は学校の教員もやったのですが、学校数は私が在籍しているところから見る</p>

<p>忠会長</p>	<p>と、半分以下になりました。統合がどんどん進んでいますし、子どもたちの数もどんどん減っていくわけです。</p> <p>ここでどうやって出生率を高めていくかということになると、なかなか厳しいものもあるのではないかなと思うので、私たちがここで本当に目標として正しいのかどうかということ、熱心に協議をするべきだと。私は人口減少問題のところ、ここが一番の問題になるのではないかと思います。</p> <p>というご意見もあります。理想を高く掲げ、それとこれとは違うのだということではなくて、ある程度根拠を持ったものとして考えていかなければいけないという意見でございました。</p> <p>最後にもうお一方、二方ぐらいから意見をいただいて、加藤委員、お願いします。</p>
<p>加藤英人委員</p>	<p>確認というか、人口ビジョンというのはあくまでも夢であって、その夢を大きく描くか、現実に近いものに描くかということ。総合計画は目標ということになるかと思うのですよ。そうすると、夢と目標とどのぐらい近づけるかという論議になってくるかと思います。人口ビジョンのときにあまり低く設定すると、小さい夢だと小さくなってしまいますし、その辺の兼ね合いがあるのではないかと思うのです。</p> <p>ただ先ほどから数字の部分で、1.5 とか 2.1 とかという数字は出てはきているのですが、ある程度そういう数字の下に設定したというものがないと、漠然とこうしたいと言っても、何を根拠にという部分が出てくると思います。その辺の兼ね合いが非常に大事かと思います。</p> <p>村上市も結構も便利になってきており新潟市まで通勤圏ということを考えれば、村上市でどうしても仕事をということでも新潟市で仕事をして、帰ってきて寝泊まりして、週末には村上市にいてもらうという考えの下に、ここにはないような形を探し出してもいいのではないかなと思うのです。</p> <p>関東圏の人たちが電車に乗っても1時間半も2時間も通っており、そういうことを思えば、電車や高速バス、マイカーなどに補助を付けて通って、住んでもらったほうが村上市にはいい。そうすると子どもたちも住むことによって、今までよりは増える。そのような方向の検討もしていった方が良くはないか。</p> <p>今、まるっきりゼロのものを入れるほうがよほどいいわけであって、そういう視点からもやはり検討していったほうがいいのではないかなと思います。</p> <p>また不謹慎ではあるが、関東、関西で大きな地震とかあれば、新潟県内でも一番安全なのはこの地区だと思うのです。緊急時の受け入れ先としても検討していったほうがいいのではないかと思います。</p>
<p>忠会長</p>	<p>これはまた、貴重なご意見でした。それでは、いろいろご意見をいただきました。それを参考にさせていただきながら、ぜひ庁内での議論に生かしていただければと思います。大変ありがとうございました。議事につきましては、以上で解きたいと思います。</p>
<p>忠会長</p>	<p>5. その他 (1) 予備提起</p> <p>5番目、その他になりますが、(1) 予備提起ということで、第1次村上市総合計画の中間総括(案)ということで、今資料を準備いただいておりますので、ご報告します。</p>

<p>[説明]事務局</p> <p>忠会長</p> <p>加藤幹司委員</p> <p>忠会長</p> <p>事務局</p> <p>忠会長</p> <p>田辺委員</p>	<p>〈資料5について説明〉</p> <p>以上、説明でございます。次回までに用意いたしますということですので、今日持ち帰っていただいて、ご覧いただければと思います。何かご質問ありますか。</p> <p>はい、どうぞ。</p> <p>個票についての説明をいただきました。各係で事務的に積み上げられたのが個票ということを出ているのだらうと思うのですが、総合戦略が策定される前に細かい部分がどんどん要望として固まってまいりますと、大きな総合戦略に影響してくるのではないかと思うわけです。</p> <p>総合戦略というのは、村上市の持ちうる資源を活用して、特性のあるまちづくり、これが方向性だらうと思うわけです。ここに出てきているのは本当に、どこの自治体でも違いがないのではないのかなと考えられるわけでありまして。</p> <p>これがどの程度の拘束力を持つのかちょっと分からないのですが、進め方として本末転倒のところがあるのではないかなと、私自身は考えるのですが、その辺はいかががお考えでしょうか。</p> <p>今、取り扱いも含めて説明をお願いします。</p> <p>お役所仕事で申し訳ないところがありますが、次の計画をつくる時に、まず最初の計画ってどうなったのだらうという評価、あるいは反省点も含めまして、課題の整理をしないと次に結びつかないだらうという、役所仕事としての部分でございます。</p> <p>今、加藤委員のおっしゃったように、「では都市戦略としてどうやっていくんだ」というところに対しての拘束力はこれにはございません。これは行政内部として、こんな総括をして次に結びつけていきたいのだけれどもということだけであります。</p> <p>ですので、これについては「役所の視点は違うよ」「こうじゃないでしょう」というようなご意見を、どんどんいただければとよろしいかと思います。</p> <p>それを受けて、では2次の総合計画でどうしようというための作業でございます。ただし、加藤委員がおっしゃいますように、総合戦略は大事な2次の柱でありますので、直接的にこれを総合戦略と結びつけようという意図は、私ども事務局にはございません。第2次総合計画の分野の、総合計画を議論するときに、まず現段階にやはり中間総括はすべきだらうと。</p> <p>後半になって、中間総括をうんぬんとやっていたのでは、次の総合計画づくりのスケジュール的に支障をきたしますので、これを先行してまずやって、現状を踏まえて、役所としての現状の課題と委員の皆さまの現状の課題の共通認識の下で、次の総合計画を進めたいという意味で、拘束力はないと思っていただいてもよろしいかと思います。</p> <p>そういった戦略です。よろしくお願いいいたします。ほかにご質問、いかがでしょうか。どうぞ、田辺委員。</p> <p>取りあえず11月までに、総合戦略を先行させるわけですので中間総括を次回の第3回でやるわけですね。</p> <p>今の総合計画がどうなっているか知ることは必要ですけれども、そこで今あまり議論することがないのであれば、もう少し後でもいいのかなという感じは</p>
--	---

事務局	<p>するのですけれども、どうでしょうか。</p> <p>最初は平成 27 年度中に、第 1 次総合計画の一部を見直して、総合戦略も併せながら 1 年間でつくってしまうスケジュールで中間総括を進めてきました。昨年度から各地域審議委員会の皆さまに、その予定で作業をお願いしたものが、市長が交代して、総合計画のつくり直しに変わったもので、あまりにも総括の時間をかけすぎました。実質 1 年半ぐらい中間総括と言っているものですから、事務局としてはそろそろ決着を付けたいという焦りもございます。</p> <p>ただ、田辺委員がおっしゃいますように、実は総合計画の実質的な議論は、総合戦略が終わった後ということをお願いしていますので、今これがいあまりにも議論が集中しますと、大事な総合戦略がぼやけるのではないかと指摘もあるかと思っておりますので、ちょっと会長、副会長と相談します。</p> <p>ただ内部作業はいつまでの間延びしたくないので、次に向けての議論は役所内部としては、この総括を下にある程度次の方向性を出していきたいというのがありますので、庁内作業は今のスケジュールどおり先行させていただきます。次の第 3 回で、議案として挙げるかどうかは会長、副会長とご相談させていただきます。お願い致します。</p>
忠会長	<p>山口委員、どうぞ。</p>
山口委員	<p>今ほどの、中間総括の話なのですが、実は地域の審議会でもってこの中間総括をした経緯がございます。総合計画の中に、先回でも言ったように、やはり総括をしながら評価して、それでどこが足りていないのか、足りているのかを見ながら進めていくのが本筋だろうと思っております。</p> <p>もう一つ大事なことは、この中間総括の中を読んでもらうとよく分かると思うのですが、これは市民の生活の中からにじみ出た、こういったものが多分にあります。あくまでも国のほうに顔を向けた、そういった考え方ではなくて、市民の暮らしの中で不都合、それからこんなところがものすごく足りていないというような、ちょっとオーバーに言うと叫びみたいところもございます。ぜひ市民の暮らしがこういうことなのだという観点から捉えていただければ、審議会ですらやった経緯が出てくるのではないかと思いますので、よろしくお願い致します。</p>
忠会長	<p>それではいただいた意見を尊重しながら、事務局と会長、副会長にご一任をいただくということで、次回 3 回目の審議会に向けて、準備をさせていただきたいと思っております。よろしくお願い致します。</p>
忠会長	<p>(2) 次回開催日</p> <p>次回の開催について、日程についてですが。この点については、事務局からご説明をお願い致します。</p>
事務局	<p>非常にタイトなスケジュールの中で作業をお願いしております。実は総合戦略、作業部会について 9 月中旬に 2 回ぐらいやらないと、もう目標としています 11 月ごろまでの総合戦略の策定はちょっと厳しいのではないかとこのものからいきますと、10 月の半ばから後半にかけて、何とかそこまで総合戦略部会の素案をまとめて、審議会にかけたいという意向があります。一応今のところ日には、今日はちょっとご勘弁いただきたいというところでございます。</p> <p>総合戦略の作業部会の進捗状況により変わってくると思っております。候補と致し</p>

忠会長	<p>ましてですが、10月22日、もしくは10月29日に開催を目指したいと思っています。できれば22日、ちょっと間に合わないときには29日というような、今のところイメージではおります。決まり次第ご連絡はさせていただきますので、どちらかに入るといふことで、今のところはそこまでお願いしたいと思ひます。時間は2時からを予定したいと思ひます。</p> <p>では決定次第、皆さま方にご案内をさせていただきます。ありがとうございます。</p> <p>以上で、議事及びその他を終わらせていただきます。ありがとうございました。</p> <p>6. 閉 会</p>
事務局	<p>ありがとうございました。それでは閉会のご挨拶を、佐藤副会長からお願いしたいと思ひます。</p>
佐藤副会長	<p><あいさつ></p>
事務局	<p>今回の出席の報酬の関係ですが、9月の間に合えば10日、もしくは17日の日に各口座のほうに振り込む予定としておりますので、ご確認願ひます。</p> <p>また議事録につきましても、調整次第、また発言内容の確認をお願いすることになりますので、よろしく願ひ致します。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>